

★学校教育目標				★重点計画の概要				
<p>◎すんで学ぶ子 ○からだをきたえる子 ○思いやりのある子 ○最後までやりぬく子</p> <p>【めざす児童・生徒像】① 意欲的に学び、よく考え、自信をもって考えを表現できる子 ② しっかりと話を聴く、最後まで聴く、規律正しく整然とした態度で学習する子</p> <p>【めざす学校像】① 共に生き、共に学び、一人一人が輝く学校 ② 毎日、笑って、楽しく、幸せになれる小学校「美楽幸（しょうがっこう）」</p> <p>【めざす教員像】① 心ひとつに、率先垂範で日常の指導にあたる ② 授業力・指導力を向上させ、安定した学級経営を営む</p>				<p>①人権教育を基盤として、児童の自律的な学習・生活態度の育成を目指す。</p> <p>②「確かな学力」「豊かな心」「健やかな身体」を児童に定着させる。</p> <p>③自尊感情や自己有用感を高める指導を徹底する。</p> <p>④特別な支援が必要な児童への共通理解と早期対応を図る。</p> <p>⑤社会の一員として貢献する態度の育成を図る。</p>				
領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標・評価基準			学校評議員・学校運営協議会の意見	結果の分析と改善策
				評価点	取組指標	成果指標		
子供	○自ら課題を発見し考え、判断し、よりよく解決する確かな学力の育成を図る。	●授業改善推進プランを活用し、児童の学力向上、学習意欲の向上を図るとともに、思考力、判断力、表現力等を育成するための学習活動を重視し、言語活動の指導の充実を図る。	◎個別指導、グループ別指導、習熟度別指導、放課後学習等により基礎的・基本的な学習内容の定着を図り、体験的な学習や問題解決的な学習を積極的に取り入れ、指導の充実を図る。	4 100%の教員が、具体的方策を意図して取り組んだ。	4 90%以上の児童が「基礎的・基本的な学習内容が分かる。」と答えた。	○評議員の方のアンケート結果からの評価点：3.78 ○教員と児童との間で、授業を通して様々な活動に取り組んでいることで、児童の心と体の成長を様々な様子で見え、大変よいことだと感じている。 ○教員の頑張りごとでもよい点だと思う。	○成果指標は3.3 ・協働的な学習を取り入れて学習活動ができています。 ・基礎的な学習を取り入れ、基礎的・基本的な学習内容の定着を図ることができた。反面、さらなる定着のために、チャレンジタイム、個別指導、放課後学習も活用している。 ・個別グループ全体の学習形態を取り入れた。体験的な学習を通して効率的な工夫を凝らすことで、指導の充実を図ることができた。 ・学習の習熟度が目に見えていない児童については、放課後学習等で個別指導をしてきた。今後も継続した取組を行っていく。	
		●知識を学び、感性を磨き、表現力を高める読書活動を充実させるとともに、ICT教育により、情報を適切に選択・活用する能力を育成し、協働型・双方向型学習を推進する。	◎校内研究の充実、OJT研修の推進を通して、教員の授業力を高めるとともに、児童一人一人が活躍し、学び合い・認め合い・満足感・成就感が得られるような確かな学力の定着を図る。	3 90%の教員が、具体的方策を意図して取り組んだ。	3 80%以上の児童が「学び合い・認め合いの学習ができた。」と答えた。	○評議員アンケート結果の評価点：3.15 ○ICT教育について、児童へどのような効果もたらせられているかを具体的に知りたかった。 ○子供たちが、ICTを活用していくことに今後つながっていくことになる。 ○コミュニケーションについて、この先のようにしていくのが心配である。	○成果指標は3.3 ・OJT研修、教員教材・内容、指導法、各研修会でできたことなどを紹介し、学校全体で共有できる場にしてきた。結果、自他ともに授業力の向上に役立てることができた。 ・OJT研修で授業を進めている。学習内容を視覚的に理解しやすく、考え方を考えようという工夫を行っている。 ・読書週間や委員会の読み聞かせ活動に取り組んできた結果、読書活動を充実させることができた。 ・個人タイム-3人組タイム-全体で考え方を共有する学習スタイルを取り入れ、協働学習を定着させることができた。 ・授業でも、読書週間の読み聞かせ活動、読書週間構成などを提示し、それを活用し、読書と書く活動について研究を深めた。	
教職員・学校	○自分の大切さや他の人の大切さを認め、行動できる豊かな人間性の育成を図る。	●いじめ防止基本方針に基づく読書活動の未然防止と早期発見・早期対応及び学校不適応の解消のため、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、巡回相談員等を活用していく。	◎ふれあい月間の取組等により、温かい人間関係の育成を図り、思いやりのある豊かな人間性と道徳の実践力のある児童を育成する。	4 100%の教員が、具体的方策を意図して取り組んだ。	4 90%以上の保護者が「児童は、思いやりのある行動がとれている。」と答えた。	○評議員アンケート結果の評価点：3.78 ○家庭教育学校の講演会に参加し、心の中から違くなるような言葉かけに、参加した保護者の教情もほまれ、とてもよい時間となっていた。子供を受け入れる大人のまなざしを育てていくことも大切なことである。	○成果指標は3.5 ・スクールカウンセラーと連携した迅速な対応できた。 ・道徳の時間等において、自分ならどうするかという視点で話し合い活動を行い、道徳的心情と道徳の実践力を身に付けさせる取組を行うことができた。 ・児童一人一人のよさを具体的に共有させた活動を取り入れていく。今後もよさを生かすことのできる教育活動を展開していく。 ・自顧から児童同士の間違ったやり方、気になることをそのままにしないよう、迅速な対応を行うようにした。	
		●支援委員会等の組織的な校内体制の充実、リスルールの活用、関係諸機関との連携、就学・進学支援シートの活用等を通して、児童の教育的ニーズに応じたきめ細やかな特別支援教育の充実を図る。	◎よりよい人間関係を築きながら、自他のよさを認め、高め合う中で、自らのよさを発揮して得る夢や希望を実現するため、他者とともに生きようとする心育てるキャリア教育を推進する。	3 90%の教員が、具体的方策を意図して取り組んだ。	3 80%以上の保護者が「学校は、児童の教育的ニーズに応じた教育ができています。」と答えた。	○評議員アンケート結果の評価点：3.54 ○本校が積極的に授業を参観したが、ユニバーサルデザインの授業の観点がよく分らないので、教えてほしい。 ○子どもの持ちだにも多くの経験の機会を与え、そこから子供たちが興味・好奇心をもち、行動の意欲をもつことができればとてもよい。	○成果指標は3.3 ・キャリア学習の導入に向け、指導教材の準備や環境整備に取り組んでいる。 ・児童の気持ちや考えを尊重しながら話し合う場を意図的に作っている。 ・リスルールの活用し、個別に合った指導に努めた。 ・道徳の指導内容を工夫することで、児童の道徳的実践力を高めていきたい。	
地域・家庭、社会	○たくましく生きるための健康づくり、安全教育を推進する。	●健康に関する実践的な活動の推進及び防衛力の向上を図る。	◎自らすすんで健康の増進と体力・運動能力の向上に努め、生涯を通して運動やスポーツに親しむ態度を養い、家庭や地域と連携して、基本的な生活習慣の確立や創意工夫を凝らした食育の充実を確り、生理にわたる健康づくりの基礎をつくる。	4 100%の教員が、具体的方策を意図して取り組んだ。	4 90%以上の児童が「健康の増進と体力・運動能力の向上に努めている。」と答えた。	○評議員アンケート結果の評価点：3.93 ○体力についての取組が徹底されていることもよい。 ○指先走フークで使われているマラソンカードは、達成感をもつことができていいと思う。	○成果指標は3.3 ・児童の健康づくりを推進した。（生活調べカードの活用） ・生活調べフークや指先走フーク、給食指導を通して、健康づくりの基礎をつくることができた。 ・着替、手洗い、うがいの声かけをし、休み時間外に出るような声かけを行っている。教員もできる限り外で子供たちと遊ぶようにした。 ・給食の残量もほとんど出していない。 ・運動が苦手だった子どもも遊ぶようになった。これからも外遊びを中心に、アクティブタイムの充実を目指し、体を動かす楽しさ体験を積み重ねていく。	
		●児童の安全を守る、防災・交通安全・不審者対応等の訓練、セーフティ教室・薬物乱用防止教室の取組、児童虐待防止研修セットの活用、学校危機管理マニュアルの改善、情報モラル指導や安全指導等を計画的に行い、安全管理と事故防止の徹底を図る。	◎児童自らが判断し命を守る意識をもたせ、安全指導・健全育成に全力を期す。また地域・家庭との連携を深め、児童の登下校の安心・安全の確保に努める。	3 90%の教員が、具体的方策を意図して取り組んだ。	3 80%以上の保護者が「学校は、児童の教育的ニーズに応じた教育ができています。」と答えた。	○評議員アンケート結果の評価点：3.57 ○本校校区は事故や不審者等の被害がほとんどない、何もなかったが故に、スクールガードの運用がうまくいっていない状況はない（危機感がない）ようにも思える。 ○固定の場所には、いつも見守りをしてくれる方がいる。 ○地域性もある。見守り活動を行っているところもある。	○成果指標は3.4 ・避難訓練や日頃の学級指導を通して、安全教育を徹底して行うことができた。 ・災害時における状況判断力を身に付けるため、予告なしの避難訓練を実施し、自分の命は自分で守る意識を高めることができた。 ・「防犯ノート」や「地震と安全」「SNSノート」などを活用し、安全に対する基礎的な知識を身に付けさせた。	
地域・家庭、社会	○特色ある教育活動を推進する。	●地域の自然環境や人材を活かし、自然体験、生活体験等の主体的な活動を通して、総合的な学習の時間と各教科との横断的な学びから生きる力を培う特色ある教育活動を推進する。	◎探究的な活動を通して、各教科の知識・技能と関連付けて成果をまとめ、自己の考え方を高めさせる。	4 100%の教員が、具体的方策を意図して取り組んだ。	4 90%以上の児童が「主体的に体験活動に取り組んだ。」と答えた。	○評議員アンケート結果の評価点：3.62 ○体験学習の取組が大変素晴らしい。「本物」はとてもすごい。 ○教育活動の中で数多く取り入れられており、児童も楽しみにしている。 ○とてもよい内容で、これからも継続してしてほしい。 ○体験活動が多く、子供たちの刺激になり、とてもよい機会が増えたと思う。	○成果指標は3.4 ・生活科のさつまいも栽培、東光寺大塚のたくあみ漬の体験など、地域の自然環境や人材を十分に活用することができた。 ・日常的にも自然に関わろうとする児童が多くなった。 ・自然体験や生活体験を学習に取り入れ、知識の終わらずに、自分や生活に関わりを感じられるようにした。 ・どんぐりクラブのふかひただき、多摩川土手や中田公園の探検など、地域の特色を生かした活動ができた。 ・自然体験学習で本物体験することができた。 ・今後も本物で「見」「触れて」「感じて」「知る」体験学習を行っていく。	
		●学校運営連絡協議会や保護者アンケート等の外部評価を活用し、家庭や地域の学校に対する多様な思いや願いを受け止め、学校教育の充実・改善を図る。	◎開かれた学校づくりを一層推進するため、学校の教育方針や実践活動等を広く学校Webサイトや学校だより・学年だよりで発信する。	3 90%の教員が、具体的方策を意図して取り組んだ。	3 80%以上の保護者が「学校は、情報発信を積極的にしている。」と答えた。	○評議員アンケート結果の評価点：3.57 ○ホームページで、学校生活やPTA活動が分かるようになってきたので、働いている保護者にとっては、とてもありがたいことだと思う。 ○地域との関わりを積極的にし、子供たちの環境づくりに努めていると感じる。	○成果指標は3.4 ・学校Webサイトや学校だより等を通して学校の教育方針や実践活動を十分に発信することができた。 ・学校だより・学年だよりや学級だよりで学校や学級の様子を伝えるようになった。 ・保護者の要望や不安などはすぐに相談に応じ、管理職と相談しながら早期に対応ができるようになった。	

※評価指標・評価基準は、2の段階を現状としています。